

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立特別支援学校さいたま桜高等学園)

目指す学校像	個々の生徒の持てる力を最大限に発揮できる教育実践により、一般就労率100%を目指す
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 個々の生徒の能力や適性を踏まえ、生きて働く力を高めるための授業づくりを推進するとともに、学科・学年・学級の協働と保護者との連携により、個を生かす就労支援を推進する。 2 3年間の学校生活を通して、生徒一人一人の調和のとれた心と身体づくりに取り組み、生きて働くための意欲や社会性を育てる。 3 教職員一人一人の持てる力を最大限に発揮し、特別支援教育のセンター的機能の充実に取り組みむとともに、地域との連携・共同した活動の一層の推進を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年度評価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年度評価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	<p>○10周年記念誌の内容の一部として各教科領域における3年間の指導内容をまとめた。また、羽生ふじ、入間わかくさとの学び合いや分校も交えた教科学習等の指導内容の研修会も新たに始めた。</p> <p>□学校間の学び合いでは生徒間交流も入れてより充実を図るとともに、分校を交えた教職員間の研修会も充実を図り、生きて働く力を育成していく授業力の向上を図っていく必要がある。また、生徒の実態を踏まえ、企業実習の機会を広げるなど、3年間で生徒の力をできる限り伸ばすと共に、卒業生の定着率の向上を図り、離職を減らせるよう「困ったときに相談する力(相談力)」の育成やフォローアップ体制を検討していく必要がある。</p>	<p>・個々の生徒の能力や適性を踏まえながら、生きて働く力を高めるための授業力の向上を図ると共に、個を生かす就労支援を達成する。</p>	<p>①学校間の学び合いの推進(生徒間交流、教員間研修)を行う。また校内では、管理職による授業観察、校内授業研究や事例研究などを行うことを通して、教職員間の学び合いを推進する。</p> <p>②整理した指導のまとめを元に、各授業内容等をより具体的な資料としてまとめ、教育課程の内容を研究・充実させていく。</p> <p>③相談週間を設け、保護者・本人の相談力の向上を図ると共に、進路指導部を中心に保護者の進路に対する意識への理解啓発を図る。</p>	<p>①教職員一人一人が研修等に主体的に参加することができたか。(専門研修も含めて)</p> <p>②職業教育、専門教科をはじめ各教科・領域の学習内容の具体的な指導内容の蓄積ができたか。</p> <p>③相談週間等で十分に保護者や本人の相談に応じることができたか。</p>	<p>①3校学び合いで、国語、数学、職業、生徒指導の各部会別に研修計画をたてて研修を進めることができた。また、生徒同士の学び合いの場として生活体験発表会を12/8に本校で行った。校内における全校研修として、講師に平岩幹男氏を招いた研修の他、学科毎の研修では「授業における工夫点の検討」を7/26及び8/28に行い、その後各学科の専科の授業の研究授業を行い、その反省を通して研修を深めた。</p> <p>②教育課程検討委員会において、教務主任を中心に具体的に資料化の方策を示して、学習内容の蓄積及び資料化を進めた。</p> <p>③7/10～7/14 まで前期相談週間では、12件の相談があり、12/11～12/15 までの後期相談週間では10件の相談に応じた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>①3校学び合いも軌道に乗ってきたので、各領域・教科毎の部会や専科等に幅を広げてより充実させていく必要がある。</p> <p>②学習内容の具体的な資料化は進んできているが、領域・教科別にみると、きちんと資料化できている部会とできていない部会との差があるので、より資料化を進めていき、3校学び合いに使える資料にしていく必要がある。</p> <p>③相談週間でなくとも、いつでも相談できる状況をしっかりと保護者に知らせて取り組んでいく必要がある。</p>
2	<p>○自立活動の時間において、チェックシート等を活用し、生徒と複数回の個別面談を行いながら、一人一人の課題を把握し指導に当たっているが、家庭の課題や本人の意欲等の課題から退学者や転学者が見られた。</p> <p>□保護者と連携し、生徒一人一人の的確な実態把握をし、指導計画を作成し評価すると共に生徒・保護者が安心して学校生活を送れるように相談体制を充実させていく必要がある。</p>	<p>・生徒の卒業後の社会自立への意欲を高めるため、社会性を伸ばさせていくための学習を充実させる。</p>	<p>①チェックシート等を活用し生徒個々の課題を焦点化させ、プランBを作成し指導にあたる。</p> <p>②学習内容を分かりやすく整理・充実させ、集団生活の楽しさや社会性の育成につなげる。</p> <p>③担任による個別相談や臨床心理士との相談を活かす。</p>	<p>①生徒個々が意欲的に学習に取り組み、個々の課題の改善が図れたか。</p> <p>②道徳・自立活動やLHRの授業内容の整理ができたか。</p> <p>③個々の生徒が安定して充実した学校生活がおくれたか。</p>	<p>①教務主任、管理職が、プランA・Bの作成後にすべてのプランに目を通し、生徒の課題の捉え方等を深めた。</p> <p>②校長自ら各学年毎に2回ずつ自立活動の授業を行い、生徒の個々の課題への迫り方を見せることによって、教職員の自立活動の指導力の向上を図ると共に、意識の向上を図った。</p> <p>③本年度も臨床心理士による相談を活用して取り組んでいる。(2/1現在:17回、延べ71人)</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>①生徒の課題をきちんと捉えて指導をしていくためには、今後も各教員の指導力の向上を図る必要がある。</p> <p>②個別の指導だけでなく学級集団等を活用し生徒同士の学び合う力を利用した指導のあり方を深めていく必要がある。</p> <p>③今後も臨床心理士を活用して取り組んでいく必要がある。</p>
3	<p>○桜区や関係機関、地域自治会の協力をいただき地域行事等への参加は定着し充実した活動を行うことができています。高校からの相談を中心にセンター的機能の充実を図っている。</p> <p>□地域との連携では、地域企業等とも連携し、実習などの教育活動の充実を図っていく必要がある。また、本校の専門的な教育内容や教職員の専門性を生かして地域のニーズに応えながら、センター的機能をより活性化していく必要がある。</p>	<p>・特別支援教育を推進させるためのセンター的機能のより一層の充実を図る。</p>	<p>①地域ニーズに対応したプラザ、ショップ、カフェにおける販売活動や地域行事への参加を行う。</p> <p>②コーディネーターを中心として高等学校、企業への支援を行うとともに、就労支援等のセンター的機能の取組を発信する。</p>	<p>①地域ニーズを把握し、充実・工夫ができたか。</p> <p>②高等学校や企業のニーズに応えた支援の実施・発信ができたか。</p>	<p>①大久保地区納涼祭(7/22)、夏休みお仕事体験教室(8/1・3)、親子木工教室(8/5)に参加。新たに埼大通り商店街のけやき祭りへ出店(11/12)した。</p> <p>②高校よりの相談2件。その他、新座高校への対応等についてコーディネーターを中心に行う。また、県の高校通級に伴う研修会等に対応する。今年度も就労支援部を中心に雇用セミナーを2回実施。今年度の新規企業よりの就労相談は40社。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>①今までの地域への貢献内容を確認しながら、生徒の有効な学習活動としてより内容を深めていく必要がある。</p> <p>②平成30年度からの高等学級の通級指導を支える体制作りを進めると共に、本校としてのセンター的機能としての就労支援を、企業も巻き込んで更に充実させていく必要がある。</p>

学校関係者評価	実施日 平成30年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・相談が上手くできない要因は生徒の能力によるところもあるが、「困っている自分」に辿り着けるように別な方法でカバーできるようにしていくことも大切ではないか。また、相談しやすい方法は生徒によって違うので、相談週間という機会だけでなく、他の方法で相談しやすい状況を作る必要があるのではないかと。</p> <p>・アンケートは、生徒の考えを拾い上げ切れているか。アンケートに書けない生徒の考えをどうやって評価していくのか考える必要があるのではないかと。</p> <p>・ある企業では障害者が貴重な戦力として認識されている。一方では罰金を払った方がコスト面でよいと考える企業もある。ある四季折々の勤務状況を把握できるように、インターンシップを多く取り入れている所もある。参考にしようか。</p> <p>・生徒が困っていることを分かることは、目標や達成することが分かっているか。そのためには生徒に学習する内容をしっかりと示しているかが大切となる。ゴールを明確にしていれば、生徒が自分をモニターできるようになる。ゴールを明確に示し、それにアプローチする方法を考えさせることが大切と考える。</p> <p>・地域の方々、生徒たちの挨拶が良くできていることや敬老会への参加、清掃活動等で大変感謝しており、ショップをPRする方もいる。今後ともよろしく願いたい。</p> <p>・チーム桜・助け合い・支え合いをどのようにしていったら良いか。PTAも協力をして先生方と一緒に良い環境作りをしていきたい。</p>

